

九 源平と行平の舞台

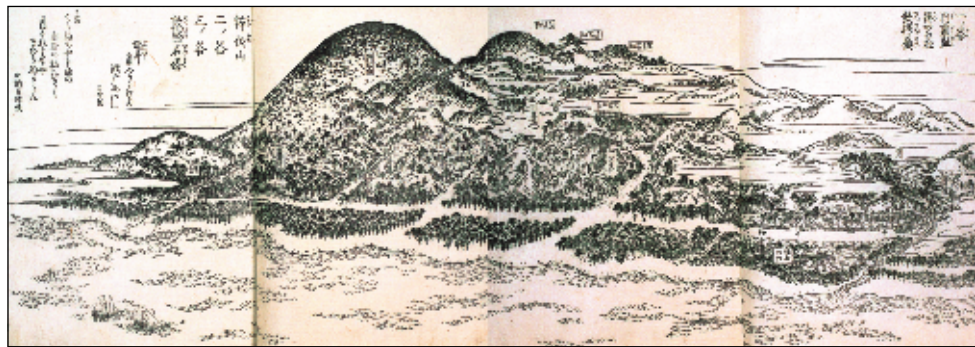
風光明媚で温暖な地として、古くから多くの人を魅了してきた須磨。

奈良、平安時代には貴族の隠棲の地として様々な人が訪れ、「万葉集」や「源氏物語」の舞台として登場します。能楽や舞踊にも取り入れられた在原行平と松風・村雨の物語も須磨でうまれました。

また、山が海にせまり、交通の要所だったため、古代には「須磨の関」がおかれました。その後、幾度となく歴史を分ける戦いの場となり、その中でも源平の戦いにおいて屋島・壇ノ浦の合戦と並ぶ一の谷の合戦にまつわる史跡が数多く残されています。

特に、西国街道から参道がのびる須磨寺には、若くして討たれた平敦盛像や敦盛ゆかりの青葉の笛などが宝物館に納められ、境内には平敦盛の首塚、源義経の腰掛松などがあり、江戸時代に多くの旅人が訪れたといわれています。

このほかにも、境内には数々の文学碑などがあり、須磨の歴史をしのぶ史跡がたくさん詰まっています。



「摂津名所図会」須磨浦公園から現在の須磨駅一帯

主な見どころ

若宮神社

明治の初め、弓場八幡神社の分社として勧請したのがはじまり。祭神は仁徳天皇。4月15日に例大祭、10月15日に秋祭がある。

浄徳寺

真言宗。久安7年(1146)仁海上人の創建と伝えられる。本尊の薬師如来は、須磨にわび住まいした在原行平が都に帰れるようにと祈ったと伝えられている。

弓場八幡神社

祭神は心神天皇。永延年間(987~989)の創建と伝えられる。須磨村の氏神。1月18日、20日に厄除祭、4月30日、1番近い日曜日に春祭大祭がある。

松風村雨堂

在原行平がある日夕汲みにきた多井畑の娘一人に出会い、松風「村雨」と名付けて愛した。行平が都に戻った後、姉妹が結んだ庵の跡だと伝えられる。

浄福寺(輔政薬師)

「お薬師さん」として親しまれ、「摂津名所図会」にも描かれている。本尊の薬師仏は、聖徳太子の作と伝えられている。

元宮長田神社

須磨の旧家・前田家の旧邸内にある。護国神社が来て中世に須磨一帯を氏子地とする以前、須磨が長田神社の氏子地だったころの名残だと思われる。

平重衡

源平合戦で捕らえられた平重衡が松の根に腰をおろして無念の涙を流したといわれたという伝説。かつてここに「腰掛の松」といわれた大きな松があった。

綱敷天満宮

須磨の天神さま。天元2年(979)創建。菅原道真が九州に左遷された際の伝説に基づいている。1月24、25日に初天神祭、2月24、25日に梅花祭、7月7日に七夕祭、7月25日に例祭天神祭などがある。

諏訪神社

祭神は建御名方命(たけのみかたのみこと)。社殿が東を向いているので東向明神ともいわれる。一説ではこの神社の諏訪がなまつて又須磨の地名がついたともいわれる。

須磨寺(福祥寺)

真言宗須磨寺派の大本山。淳和天皇のころに、和田岬の沖で漁師に引き揚げられた聖観音像を、仁和2年(886)に開鏡上人が須磨の地に移したのが始まり。毎月20、21日のお大師さんには参道に屋台がでて、参詣者が多い。

現光寺

浄土真宗西本願寺の末寺。もとは源光寺とも書かれていた。永正11年(1514)浄教上人の開基。古代の須磨の関跡だという説もある。

関守稻荷神社

須磨の関の守護神としてまつられたと伝えられる。境内には百人一首でしられる源兼昌の碑がある。

村上帝社

平安朝の末期の琵琶の達人藤原師長(ふじわらもろなが)と村上天皇にまつわる伝説から、土地の人々が祀ったものだとされている。山陽電鉄を挟んで、北側に琵琶塚の碑がある。

旧和田岬灯台

明治4年(1871)建築。明治17年(1884)、兵庫区の和田岬にあった木造灯台を鉄骨に改築。昭和39年(1964)に現在地に移された。明治初期の鉄骨灯台として現存する最古のもの。国登録文化財。

須磨海浜水族園

日本初のチューブ型トンネル水槽で水中散歩が体験できるアマノ館が平成12年7月オープン。9時~17時。水曜定休。祝日・春休み(8月)は無休。1,300円(078)331-3701

須磨離宮公園・植物園

もともとの武庫離宮跡。昭和42年(1967)に皇太子殿下御成婚記念事業として完成。9時~17時。水曜定休。祝日・営業日(休み)。40円(078)330-6888

Legend box containing symbols for different types of buildings and infrastructure, along with colored lines (red, pink, blue) representing different zones or boundaries.

